

東日本大震災の被災者が集結し、全国各地から全国に情報発信し、約1500人が来場し、独自の臭みを抑えて食べやすいと評判だったが、今回

が考案したオリジナル料理を競う「復興グルメF-1大会」が7月に1位に輝いた。初回は気仙沼産サンマの甘トで、店主たちの期待は大きい。店主代表の石森政成さん(51)は

「大会を足掛かりに、のれん街の存在を知ってもらい、より多くのお客さんに来てもらえるようにしたい」と意気込む。

「大会を足掛かりに、のれん街の存在を知ってもらい、より多くのお客さんに来てもらえるようにしたい」と意気込む。

仮設商店街が 創作料理競う

日川
21日
鮎
月巻
来石

今月15日まで 出場団体募集

場、大船渡市のおおふサンマのすり身をすいとんの皮にくるんだ汁料理「大船渡さんまばつとろ」だった。

大会は出品料理を来場者が食べ比べて投票し、グランプリを決める仕組み。前回は岩手、宮城両県から計11店舗

のれん街は第2回に参加。ツチクジラの竜田揚げとキャベツ、トマトをパンに挟んだ

援助団体AMDA(岡山市)の大政朋子さん080(2923)6114。